様式第2号（第5条関係）

議長	事務局長	次長	主幹	係長	係
村瀬	成田				幸嶺

令和元年12月23日

調 査 結 果 報 告 書

今金町議会議長　村瀬　　廣　様

農業振興と議会の課題調査研究グループ

（氏名）　　芳賀　芳夫　印

今金町議会政務活動費の交付に関する要綱第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1　調査期間　　令和元年11月18日～20日

2　調査先　　帯広市、札幌市、中札内村

3　調査事項　　農業振興と行政の関わりについて
今金町議会としての課題と道内における先進的事例について

4　調査先面会者

JA中札内
代表理事組合長　　山本　勝博
販売一課主査　　木村　紗代里

（株）十勝くみあい農業機械センター
代表取締役専務　植田　尚典

北海道町村議会議長会
事務局長　　村川　寛海

5　調査結果

別紙の通り

6　行政視察名簿

別紙の通り

今金町議会 1.12.23 第　号

政務活動費の視察報告

1　農業振興と行政の関わり方について

（1）農業の基本的目標と実践　　ＪＡ中札内　　山本勝博組合長

・生産組織の確立。農業の６次化の推進。コスト削減対策として、澱粉工場・肥料工場・飼料工場・農産加工物などの独自経営をしている。

・各種事業の職員は、中札内定住を前提とした雇用となっている。民間によるアパート、マンションの建設、行政は廃校となった学校の教員住宅の再利用の提供をおこなっている。また導入機械の 50％の助成をするなど、地域一体の取り組みとなり、人口増へ繋がっている。

（2）貿易交渉の動向について

（前中央会帯広所長）　㈱十勝くみあい農業機械センター植田尚典専務

・貿易交渉により少しずつ競争環境が変わる中で、将来を見据えた地域での対策が、急務となっている。

・町づくりの基本は農業。農業の活性化が、人口増化のポイントになる。

・「ＧＩ」認定によって、今後は海外輸出にむけて、国際水準の目標「ＧＡＰ」の普及推進が必要である。

2　議会の使命と議会改革について　北海道町村議会議長会村川寛海事務局長

・議員報酬は、自分のこととして考えがちで、やりずらいが、これからの人

なり手不足の点からも、上げる必要がある。

・議員定数は、定数を減らすと、最低当選ラインがあがり、新しい候補者が出ずらくなる。女性議員が減る。

・常任委員会は定数によるが、複数の委員会が望ましい。一委員会は、最低7人～8人が必要。重複も可能である。

まとめとして

今回の視察研修においては、各関係機関の専門的な立場の方々より、深いお話と意見交換ができました。これからの政策提言の参考にしたいと思っております。


JA
農産物加工処理施設事務所







□ 支出科目：調査研修費

1.研修内容

農業振興と行政の関わりについて
今金町議会としての課題と道内における先進的事例について

2.日　　時

令和元年11月18日～20日

3.会　　場

・JA中札内農産物加工処理施設事務所会議室
・(株)十勝くみあい農業機械センター会議室
・北海道町村議会議長会会議室

月　日	項　目	内　訳	区　間	金　額	確認方法
11.18	研修費	宿泊費	～帯広市	79,200	領収書
11.19	〃	〃	～札幌市	55,385	〃
11.18～20	〃	交通費	今金～帯広市・札幌市	187,810	〃
11.18～20	会議費	謝礼、お土産	～	38,262	〃

〈 研修費 〉

宿泊費　7，200×11名＝79，200(帯広市)　5，035×11名＝55，385(札幌市)
交通費(17，074)+会議費(3，478)＝20，552×11名＝226，072

今金町議会議員（政務活動グループ）行政視察名簿

NO	役職	氏名	ふりがな	備　考
1	議　員	川　上　絹　子	かわかみ　きぬこ	
2	議　員	山　崎　　仁	やまざき　ひとし	
3	議　員	小川ひとみ	おがわ　ひとみ	
4	議　員	日　置　紳　一	ひおき　しんちい	
5	議　員	内ヶ島祐一	うちがしま　ゆういち	
6	議　員	上　村　　忠	うえむら　ただし	
7	議　員	岸　　徹　也	きし　てつや	
8	議　員	徳　田　栄　邦	とくだ　しげくに	
9	議　員	村　上　忠　弘	むらかみ　ただひろ	
10	副議長	芳　賀　芳　夫	はが　よしお	
11	議　長	村　瀬　　廣	むらせ　ひろし	

中札内村・北海道一の組合長と言われている山本勝操組合長
を訪問した。なる程、とうなづける程の組合長でした。
人口約7000人の中札内村をここまでの農業を上げる迄に
作り上げた実績は凡人には真似できるだろうか？
枝豆の6次化
以前テレビを見ていた時に1週1回ごとに面積を決めて計画をし
組合員に大豆の種をし枝豆の収穫時期も計画し前倒
時期に計算して大型コンバイン(もぎり)で(6200万)収穫する。
厳しい残留農薬の検査を徹底し、ハサップの認証を元より(22000の認証)
生産、加工販売と、あらゆる販売のパターンを使って
全国的に売りさばく。組合長 山本組合長の手腕はすばらしい限りである。
第45回 日本農業大賞を取った枝豆を外国に向けても
販路を広げて行こうと努力している。現在4つの会社との取引
学校給食の給食で使ってもらっているそうです。
中札内は枝豆を9/20に収穫し後すぐに麦をまく輪作体型を
とっている。通期には枯する麦は反収1.5倍位と言う
農業を営む農家にとって、高収益となるのは、うらやましい限りです
すごうです。農業組合員の結束に努力する組合長に感動しました。今後も何かを
なければ…。
二回目の視察
十勝ひがし農業センターの農作業事業センターに行き
代表取締役専務の植田尚典氏のごあいさつを伺いました。
一口で言い表わせない世界、いや日本の行末を見すえた話に
植田さんの農業の重視とでも言うのでしょうか。よく見えると感じました
よく農業の事を知りつくし考えて下さる指導者であると
感謝しながら 研修を終えました。考えさせられる事が沢山ある2日でした

川上綱子

帯広視察の感想

一日かけて、遠い帯広にいきましたが、それだけの価値のある研修ができました。それぞれの立場が違う三人の方のお話を聞くことができました。キイポイントとなる人の力を感じました。

先ずは、ＪＡ中札内の山本組合長の熱心なお話に感動しました。27年の年月をかけ、10年間の赤字にもめげず、枝豆の生産から加工までを手掛けています。年月の長さもさることながら、その時代に、すでに農業の６次化を考えたことに、驚きを感じます。先をよむ。よく言われる言葉ですが、簡単なことではありません。農産物加工処理施設も視察させていただきましたが、ロボット化によって、２交代制で効率よく、衛生的に稼働していました。

生産者には、農協の本気度を理解してもらうことに、徹底して取り組み、加工においては、ＦＳＳＣ22000認証をとって食品の安全を国際レベルに押し上げ、販路は、ホクレンを頼らず、道内外に留まらず、海外にも積極的に広げている。農業大賞を取り、信用も勝ち取り、報道関係にも名前を売っていく。組合長自ら奔走して、今がある話である。ただ、ただ、驚くばかりですが、その中には、今金町にとってもヒントになることがあったと思います。規模が大き

い話ですが、考え方としては、参考になると思います。

個々の利益だけでなく、みんなで組織としてやっていくことが必要だと痛感しました。今金町では、すでにＧＩ認証でその成果はだしています。その先が、これから問われることだと思いました。そして、大きな可能性をもっていることでもあります。

次の視察は、十勝くみあい農機事業センターで、植田専務のお話を聞きました。今金町の農業者経営指導を、以前の仕事場でされていて、たいへんなごやかな雰囲気ではじまりました。内容は、農業の現状、国の考え方、これからの農業について、細かく説明していただきました。その考え方は、多岐に渡り、これからの在り方も熱く語っていただきました。個々の疑問点にもこたえていただき、持っているスキルの高さに圧倒されました。こういう方の助言を、続けて受けられるようにできればいいとおもいました。とにかく知識の豊富さ、熱意の高さを感じました。このかたがいれば、十勝の農業は、安泰だと感じるほどでした。

一番気になったのは、ＧＡＰ認定のことでした。世界基準の規定なので、これからの海外輸出にむけて必要なものである、ということでした。第８次今金町農業振興計画の中で、継続する必要がある取

り組みのなかにも、ＧＡＰの取得をめざすと記されていて、安心しました。また、大型の投資が増えることで、人が増える。農業の活性化が、人口増加になる。この言葉が、印象に残りました

最後は、北海道町村議会議長会村川事務局長のお話です。

ここでは、議会が直面している問題についての話で、考え方を、教えていただいたと思います。

議員報酬は、これからの人のためにも上げる必要がある。

自分のこととして考えがちで、やりづらいが、これからの人、なりて不足の点からも、考えていく必要がある。

定数を減らすと、最低当選ラインが上がり、新しい候補者がでずらくなる。女性議員が減る。女性議員の比率は、定数の多いところが高い。少ないところが低い。

定数を減らすことのリスクがあることに、気づかないで、この問題を考えていたので、慎重に考えていきたい。

議会モニター制度が議員のなり手につながる。議会のやっていることをわかっている人が、審議会のメンバーになることが必要。

やってみたいことですが、その前に準備が必要であることが理解できた。まず、議会への関心をもってもらうこと。そのあとの話。

委員会の一委員会は、制度的に好ましくない。視察の受け入れ最低７人～８人。重複して入る人。新人、副議長。という例も。単純な考え方で賛成してしまった。すでに、視察を断られたり、不都合が出ているので、検討の必要を感じる。

政務活動費は、町の規定に準じ、議会独自に基準を考える。他の町村に合わせる必要はない。

具体的な話で、たいへん参考になりました。基本条例を見直すことも、考えなければならないと思いました。

この視察を企画していただいた芳賀副議長に感謝しております。会派がない、今金町議会では、このようなやり方もありだと思いました。自分では掘り起こせない人脈です。これからの活動も、広がりをもてるものになればと思います。

１日目　視察先　JA 中札内村
応対者　　山本勝博　組合長　　日置　伸一

枝豆で有名な JA 中札内を視察し、JA と行政とのつながりなどを研修してきました。JA が雇用を増やし、人口増加に貢献してくれているという事で、村が枝豆の収穫機などに助成をしているとの事で、JA と村との関係は良好という感想を持ちました。又、山本組合長の言葉の中で、農産物を売る為には村が有名にならなければならないと言う思いから様々なコンクールに参加し、ついには日本農業大賞を受賞するに到ったお話を伺い、トップのリーダーシップの重要性を痛感させられました。

１日目　視察先　（株）十勝くみあい農業機械センター
応対者　　代表取締役専務　　植田尚典様

日米貿易交渉の中身、北海道農業への影響などのお話と、政府の交付金活用、補助事業をうまく活用する事で人口増加につなげる事も出来た例もあるとの事でした。
例として、上士幌町、陸別町などを上げておられました。又、今金男しゃくが G1 の認承を受けた事を紹介したところ、地理的表示だけでは海外への輸出はムズかしく、GAP を取得する必要性を強くお話しされていました。

２日目　視察先　　北海道町村議会議長会
応対者　事務局長　　村川寛海様

・議員定数　　女性議員を減らさない為には定数は減らさないのが良いし、減らすと新人は出づらいとの意見でした。
・議員報酬　　現職議員が自からの報酬の話はしづらいのはわかるが、こらから議員になろうとしている人の為には考えていく必要もあるのではとの事でした。
・委員会　　委員会は複数あった方が良いのではと思うし、現在は複数の委員会に所属していい事になっているので広報委員会も特別委員会ではなく常任委員会で良いのではとのことでした。

政務活動道内視察

JA 中札内では、山本組合長のお話と、枝豆の工場視察見学をしました。
人口減少をふせぐため、農業の６次化事業を行いロボットの導入により
人件費削減を行っている。また 175 名の職員を中札内に住むことにしており
空いている教員住宅を活用している。村との関係も良好とのことでした。

次に（株）十勝くみあい農業機械センターでは植田専務より TPP をはじめ
農業課題と国の支援事業の説明をしていただきました。
農業の活性化が人口の流出を防ぎ農業を中心とした、街づくりをする。
大型法人で人口も増え外国人も住むようになる。また若者のやる気にさせる
事も大事とのことでした。

最後に、町村議会議長会事務局長、村川様より
地方議会の使命と議会改革について情報交換させていただき、
議員のなり手不足、議員報酬や定数のあり方について意見をいただきました。
議員定数は減らさない方が良い、減らすと新しい議員出にくい、女性議員が
少なくなる、とのことでした。なり手不足もモニター制度で議会を見て感じて
もらい議員になってほしいとの意見をもらいました。

以上、2 日間にわたり視察研修を行い他の町村も課題は同じだと感じてきました。

内ヶ島　祐一

政務活動道内視察

JA 中札内
　山本組合長による事業概要などの説明の後施設の見学を行った
その中で、特に信用を得るための努力を惜しまない姿が印象的だった。
（日本農業賞、国際的衛生管理基準導入など）

(株)十勝くみあい農機事業センター
　植田代表取締役専務より日米貿易協定合意による北海道への影響、またGI、GAPなど今後、注目される分野の説明を受けた。
今金町における今金男爵のGI取得が今後様々な波及効果を生むことが期待される。

北海道町村議会議長会
　村川事務局長より地方議会の使命と議会改革についてお話を頂く。
今金町議会において進めた改革についても検証し、改正しなければならないことも必要であると感じた。

上村忠

(今金町議会政務活動費を使用した視察の所感)　今金町議会議員　岸　徹也

２０１９年１１月１９日　　JA 中札内村　担当者　山本勝博組合長
生産組織確立の為、小組合運動に始まり、法人化、共同化、を。コスト対策として、澱粉工場、肥料工場、飼料工場、農畜産物加工工場などの事業をすすめる。地域複合農業を推進し、昭和６０年有機投入量全耕地 1.92t/10a を実現し有機農業の村宣言を行う。市場開放が進み将来の農業の見通しが難しい状況にある中、組合員各位の生産努力と枝豆を中心とした６次産業化の推進により農業粗生産高は伸びている。
２０１９年１１月１９日　　（株）十勝くみあい農機センター 担当者　植田尚典専務
前北海道農業協同組合中央会帯広支所長という事もあり、政府と米国の動きからTPP による品目ごとの生産額の影響（米・小麦・砂糖・でん粉・牛肉・牛乳乳製品・小豆・いんげん）等の考え方を伺う。又、国の事業の説明もあったが、本町農協が GI 取得後、生産者が GAP（グローバル）の取得意識向上に繋がるかが、鍵だとかんじる。
２０１９年１１月２０日　　北海道自治会館５F 第２会議室 担当者　村川寛海　北海道町村議会議長会事務局長
地方議会の使命と議会改革について伺う。今後、議会改革活性化特別委員会が設置された時には、今回の話しも参考にしつつ取り組みたい。

様式 2

政務活動費 報告書

徳 田 栄 邦

1. 中札内農協 農産物加工施設(えだ豆加工施設)

(対応者　　山本代表理事組合長)

所見

○ えだ豆栽培圃場の周囲に、エン麦を植える「額縁栽培」により、隣接する圃場からの農薬飛散を防止するとともに、残留農薬検査を徹底実施するなど、(大分農家さんの抵抗もあったようです)安全性を追求している。
収穫はj Ă が所有する、4台のハーベスターが 24 時間体制で、フル稼働して収穫したえだ豆は、直接加工施設に搬入、洗浄・塩ゆで後すぐに液体窒素で瞬間冷凍することのより、「採れたて旬の味」として売り出している。(収穫から 3 時間以内に冷凍加工処理完了)
この、こだわり収穫・加工技術が認められ、平成 22 年には農業大賞(特別賞)を受賞平成 28 年には、日本農業大賞受賞へと繋がっている。
残念ながら、収穫時期ではないため、工場の稼働状況は見れませんでしたが、現在は外国人労働者も受け入れ工場を動かしている。
しかし、えだ豆に関する 6 次産業化や輸出等に関する取り組みや、生産物加工品販売所等参考にすべき要素がたくさんあった施設であった。

(株)十勝くみあい農機事業センター

(対応者　植田　代表取締役専務)

所見

○ 日米貿易協定にかかる、日本の立場及びアメリカの動向など、農林水産大臣談話や、閣議後の記者会見の様子から、品目ごと生産額への影響についても、米。小麦・砂糖・牛肉・乳製品・小豆等詳しくお話を伺った。
又、経営所得安定対策・収入保険制度・直接支払い交付金・日本型交付金等解説して頂く。
最後に農業が活性化することにより、過疎を防ぎ、人口の流出を止める原動力となるその起爆剤となる、地理的表示(GI)の登録だと思うと閉めて頂いた。

町村議長会

対応者　村川　事務局長

地方議会の使命と議会改革

所見

○　全国議長会の要望事項について

○　議員報酬の在り方検討委員会について

○　町村議会の在り方に関する研究会報告について

○　一般質問・質疑・討論・委員会について

○　議会モニター制度について

これらについて説明を受ける。
村川氏は、今金議会について特別表彰を受けたことを、事より高く評価されており、
果たして今の議会のままでいいのか、逆に不安に思う。

政務活動道内視察報告書

村上　忠弘

○JA 中札内

農業の六次化に枝豆の生産に取り組み、H30 年度売上げ２７億、これまでのご苦労話しから山本組合長として17年間の生産者、販売先より信頼される義務と責任を果たした事にすばらしさを感じました。

収獲から調理、加工まで３時間、新鮮を保った加工技術と衛生管理は評価するところです。

労働者としてベトナム人を２０名雇用、国内３６府県の学校給食、海外輸出１１ヶ国と販路、販売環境を広げている。

タマフクラの種子が今金から行っている事も知らされた。

○（株）十勝くみあい農業機械センター

代表取締役専務、植田氏より米国政府の動向、日本政府の動向等、日米貿易協定による農産品の合意内容等の説明を受ける

農林水産大臣の談話報道で、国民の主食である米は関税削減、撤廃から「除外」を確保、畑作４品目の生産額の影響もほとんどない。今後、農林漁業者、国民の懸念と不安を払拭するための合意内容について説明を尽くすと話されている。

○北海道町村議会議長会

事務局長村川氏より地方議会の使命と議会改革と題して講義を受ける

・政務活動費を取り入れている議会は全道１４４町村中１６町村しかない
・議員報酬については北海道は低い
　大阪は平均３０万以上
・定数を減らすと女性議員が少なくなる
・常任委員会は定数によるが複数常任委員会が望ましい

今回の視察研修において、各関係機関の専門的立場の方々より深いお話しと意見交換が出来、これからの政策提言の参考にしていきたい。

政務活動による視察研修報告

芳賀　芳夫

JA 中札内

１．　農業振興と行政に関わりについて

１）　山本組合長より JA の概要説明

人口は 4,300 人農家戸数１４５戸、総生産高１３４億円　当初の枝豆工場は平成２７年まで赤字経営であった。組合長就任後職員と共に赤字分析と反省を検証し、新たな窒素ガス急速冷凍機を導入し品質管理向上を図る。

原料（枝豆）についても残留農薬の JA 独自の検証基準を定める、販売戦略については７人を専任とし（女性を含む）で国内、国外のトップセールスで構成され４２７社と契約となっている。

また合理化を図るためロボット作業機を導入し、以前１１０名であったが現在６０人と効率の良い体制が出来た。

従業員は中札内に住む事が条件で民間によるマンションアパートが建てられまた、行政から廃校となった教員住宅の提供を受けている。入居者は国外から雇用している方を優先として対応。

収獲期コンバイン導入について１台 6,200 万円の５０％の助成を受け、行政、JA との連携が良好な関係にあり地域全体の取り組みとなっている。

２）　感想として

・組合長としての強いリーダーシップ全責任を負う気迫が感じる

・販路は JA 独自で全て開拓し。テレビコマーシャルにも取り組んでいる（人に頼らない精神）

・農業の基本である「土づくり」は昭和 60 年有機投入 2ｔ／10ｇを実現し、十勝管内一番の安定収獲量、良品質、経営安定化となっており本町も「G1」に反映出来る対応が必要と感じた。

・職員教育が徹底されており、礼儀正しい対応であった（全職員）

この事は生産者と消費者に信頼される商品作りとなっており、地域農業の振興に大きな成果となっている。

（株）十勝くみあい農業機械センター

代表取締役専務　植田尚典

１．　農業課題（貿易）の行政との関わりについて

１）　植田専務より概要説明

政府と貿易国との交渉経過について説明を受ける。また、品目ごとの北海道生産額の影響が予測される

十勝管内においてはハード面の整備は完了し、今後ソフト面について、行政も含め地域内での課題として取り組む事となるが、十勝管内の JA は体力があり、独自の行政を取る事になるのではないか。

２）　感想として

・十勝管内のJAは安定した経営となっている、反面農家個々の投資機械が大きい

・本町として持続性ある農業と安定した収益を確保するには基本となる「土づくり」に取り組む必要があると感じる。また、労働力不足から機械に頼りざるおえない現状にある。

今後、予測される貿易（TPP、日U）に備えるには個人投資を抑えたコスト削減対策について検討する必要性を感じる。（農家所得の確保）

・「G1」を他の作物も便乗した販売戦略の構築が必要に思う。

北海道町村議会議長会

事務局長　村川寛海

１．　地方議会の使命と議会改革について

今金町議会は全道でも基本条例を制定など先進的な議会改革について評価している。

１）　感想について

議員定数　一常任委員会、行政活動　議員報酬　議会モニター　質疑等について今後、議員活動、議会活動について全員の共通認識を確認検討する必要があると思う。

政務活動による視察研修報告

村瀬　廣

○JA 中札内村では、山本組合長様より平成２８年に「日本農業賞、大賞」を受賞した「えだ豆」を中心とした６次産業化の推進への取り組みを紹介して頂き、生産者と JA が一体となり、は種から収獲、まで徹底した肥培管理に取り組んでいる事は素晴らしいと感じました。

６次産業化の「生産、加工、販売」中でも一番難しく大事なのは販売であり、成功する為に海外を含み対面販売を徹底し、組合長自ら販路払大に務めるのが大事であるとの事でした。

世界各国との貿易協定による市場開放が本格的に動き出し、農業情勢が目まぐるしく変化する中で、本町農業の振興にとっても極めて重要な取り組みであると思いました。

○十勝くみあい農業機械センターでは植田専務様より、TPP や日米貿易協定の合意をうけ、政府による農業対策の内容を解りやすく説明を受けました。

米や畑作４品等への影響は少ないものの、収入保険制度を始めとして、国が行う対策や制度を大いに活用する重要性を再認識しました。また今後、海外での競争を想定し国際水準 GAP の取り組みが必要であり、また一早い情報の収集とその情報を地域全体で共有する事が地域の農業にとって大変大事な事であると思いました。

○北海道町村議会議長会の村川事務局長様との意見交換では、議会活性化に向け多くの課題が提起されましたが、特に議員のなり手不足問題では色々な原因が考えられる中で、その１つとして議員報酬の低さにもあり、また定数減による当選ラインの上昇も原因の１つであるとしています。

定数減は女性議員の成り手に支障が出るなど指摘があり、大いに参考になりました。
今金町議会において、現在直面はしていませんが、今後の課題として捉えながら議会活動を活性化し町民議会や住民会議を活用しつつ、住民に身近な議会を構築できればと考えています。